

(別添3)

【鹿児島県湧水町】

校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、校務DXに係る具体的な取り組みを下記のとおり定める。

1. GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

本町ではGIGAスクール第1期より、校務支援システムやグループウェア等を導入し、併せて鹿児島県県域教育用アカウントによる汎用クラウドツール等を活用することにより、教職員の働き方改革を推進してきた。その結果、グループウェアやクラウド環境を活用した連絡事項、各種資料の共有や研修のオンライン化などが定着しつつある。

しかし、学校間や教職員間による活用の差があり、紙ベースでのやり取りや資料、非効率な業務作業なども依然として見受けられる。この背景には、教職員のICTリテラシーの不足や、汎用クラウドツールの導入に対する抵抗感があると考えられ、この課題を解決するためには、ICT支援員を活用し、汎用クラウドツールの有効性に関する理解を深めることが必要と考える。

具体的には、教職員を対象としたICTリテラシー向上のための研修を実施し、汎用クラウドツールの基本的な操作方法から活用事例に至るまで、包括的なサポートを行っていく。

2. FAX・押印等の制度・慣行の見直し

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していると指摘されている。

本町においては、すべての学校でFAXを活用しており、全学校で保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があると回答している。教育委員会としては、今後、緊急時等を除き原則廃止に向けて、慣行の見直しを行っていく。FAXに代わり、鹿児島県県域教育用アカウントにより教職員1人1人にメールアドレスが付与されているため、こちらの利用促進についても促していく。

3. 教育情報セキュリティポリシーの策定

令和4年度、必要なセキュリティ対策を講じた上で、クラウド上のデータやサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定した。毎年、教職員への研修や周知を図るとともに、国の方向性や現状を的確に把握し、随時改定を行っていく。

4. 校務支援システムの在り方について

本町では、児童生徒の成績・出欠席情報など機微な情報を取り扱う校務系、児童生徒が教育活動で利用する学習系をゼロトラストの考え方によるアクセス認証を前提としたセキュリティ対策を講じている。教職員用端末にはパスワード認証と顔認証の二要素認証を講じてアクセスできない構成としている。現行の校務系の環境(校務支援システム及びファイルサーバやNAS等)はオンプレミス型での運用であるが、VPNを利用し、Wifi環境下ならどこからでも教職員端末を扱うことができ、教育データ利活用や働き方改革にも資するロケーションフリー化の状態になっている。今後、オンプレミス型の校務用データ等、措置を講じてクラウド化していく。

5. 教育委員会・学校・保護者を繋ぐ連絡システム導入による業務の効率化

全国的に教職員の長時間労働が浮き彫りとなり、本町においても教職員の働き方改革が課題となっている。現在の連絡ツールは学校メール(安心メール)を利用しているが、今後、保護者が気付きやすい連絡システムを導入する予定である。児童生徒出欠連絡等をデジタル化し、教職員の業務負担軽減を図っていく。

6. 校務における生成AIの活用

文部科学省の生成AIガイドラインに準拠し、入力された情報は、生成AIの機械学習のデータとして学習用途に利用されない生成AIを活用していく。また、児童生徒用生成AIについても情報活用能力を育む教育活動をより一層充実させ、AI時代に必要な資質・能力の向上を図っていく。